

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岩槻小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全国学力学習状況調査・さいたま市学習状況調査の結果等を鑑みると、知識技能の定着には既存のドリルやプリント等の繰り返し学習の他に、具体的な活用場面の設定や説明を伴う思考時間の設定等により重点を置いて取り組む必要がある。そのための向上策として、アウトプットを目的とした知識技能の獲得や具体的な活用場面を想定した学習活動の設定、特別活動と連動した豊かな言語活動に重点を置いた授業改善で学力向上を図る。その他、スクールダッシュボード活用等によるデータ収集と分析を進め、児童理解を協働的に推進することを通じ、支援の方向性を探ることで児童の主体性を引き出し学力向上につなげていく。
思考・判断・表現	全国及びさいたま市学習状況調査や学校課題研究の成果等から、知識の活用を課題として学力向上に取り組む。そのためには、主体性を再定義、主体性を引き出すため、多角的な視点での児童データに基づく授業改善、思考力・判断力・表現力と知識・技能を連動させてはぐくむ視点での授業改善、特別活動を基盤とした豊かな言語活動を行う。また、教科横断的な視点での授業デザイン、効果的なICT活用等広い視野からの学習プランの創出を行う。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎基本の定着における個人差が大きい。 <指導上の課題> 学習展開の中で習得した知識・技能を活用する時間の確保。	⇒ ①基礎基本の時間を朝のモジュールとして実施。【週1回】②指導計画を工夫し、学習した知識・技能を活用する場面の時間を確保する。【単元ごと】③活用場面で協働的な学びを効果的に位置づけ、知識・技能の確かな定着を図る。【単元テスト】④スクールダッシュボード等を活用することで、個に応じた指導の充実に努める。【適宜】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 筋道を立てて説明する力が十分ではない。 <指導上の課題> 根拠を基に考えてより説明しやすくなる時間の確保。	⇒ ①自力解決、協働、練習の時間それぞれに個別最適な学びと協働的な学びの連動による「学び」を取り入れ、自分の考えをきちんと表現できるようにする。【単元ごと】②協働的な学びを効果的に位置づけ、他者の考えに触れ、自分の考えと比較することを通して、確かな学力の定着を図る。【毎時間】③学校課題研修と連動させた授業改善をすることで、主体的な学びを引き出す。【毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	学校課題研究を通して、「個別最適な学びと協働的な学びの連動を図る」授業研究に取り組んできた。習熟時間の設定、個別の課題設定等、基礎基本の定着を図っている。一方、スクールダッシュボードの活用、データに基づくアセスメントに課題がある。以上のことから評価をBとする。
思考・判断・表現	B	学習したこと、考えたこと、わかったことなどを自分の言葉で伝える活動に取り組んできた。学年の実態や教科の特性などもあるが学校全体として意識していることが授業の様子から見てとれる。学校課題研究と連動し授業研究を通じた授業改善も行った。しかし、児童に関する多角的なデータを活用する視点での授業改善や主体性を引き出す授業改善には課題が残る。以上のことからBとする。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	【国語】学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。特に漢字を正しく書き直すことが難しい。漢字の定着に関しては継続的な課題となっている。習得と活用を一体的に指導し記述式のパフォーマンステスト等で定着を図ることも考えられる。 【理科】電流の強さと巻数の関係について正しく捉えられていない。知識の定着に課題がある。関係を表を用いて視覚的に理解することが大切である。算数、特に比例の学習と関連付け教科横断的に指導し知識の定着を図る必要がある。
思考・判断・表現	【国語】文章だけではなく図や表を用いて考えを表現すること、事実や感想、意見などを区別し文章構成から要旨を把握することに課題がある。言葉の意味理解を丁寧に扱い定着を目指し、ICTを活用して文章のまとまりを入れ替え、構成を考える学習に取り組む等の活動を工夫することで論理的な思考を育て、読解力を養うよう取り組んでいく。 【算数】問題解決に必要な情報を見つけ、求め方を数や式、言葉を用いて記述することに課題が見られる。国語力の向上を図り、自分の考えを図や式、言葉で記述、根拠を明確にする学習を十分確保することで解決していきたいと考える。 【理科】実験結果を振り返り実験方法を検証することに課題がある。実験について見通しを持たせ、実験方法や予想される結果、条件等を考えていく過程で常に振り返る時間を設ける主体的な学習を行うことで課題に対応していきたいと考える。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	【国語】「場面に応じて適切な敬語を使うことができる」に課題がある。学校生活においては、子どもたちの人間関係が限定されており、敬語を使う必要感が乏しいからと考えることができる。【算数】「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」【理科】「ろ過の適切な方法を理解している」の課題については、知識定着を図るための思考時間が不足していたと考えられる。【社会】歴史的分野に課題がある。実生活とは遠い歴史を学ぶことに関心が低いと考える。
思考・判断・表現	【算数】算数の思考力・判断力・表現力に課題が多いことがわかった。具体的には、円の半径から円周を求める問題、比の関係を求める問題、複合グラフの読み取り問題などに課題がある。公式が成り立つ要因の理解不足、比というものの概念形成や要点と要点を結び付けて解を出す力が弱い等と考察できる。

③	中間期報告	
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	朝のモジュールを活用して基礎基本の定着を図っている。また指導計画に、学習した知識・技能を活用する時間を設定して取り組んでいる。【単元テスト前】には習熟の時間を確保、個別の時間、教え合いの時間を設定し定着を図っている。
思考・判断・表現	B	①個に応じた指導の根拠を、学習データ、児童の様子、パフォーマンステスト等、多角的観点から明確にして自力解決力を向上させる。(各単元)②学校課題研究と連動、主体的な学びを支える授業改善における3つの取組「個別最適な学び」「効果的なICT活用」「伝え合い」を研究する。(通年)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)